（2）みんなで考え、みんなでまちづくり　－デザインノート－

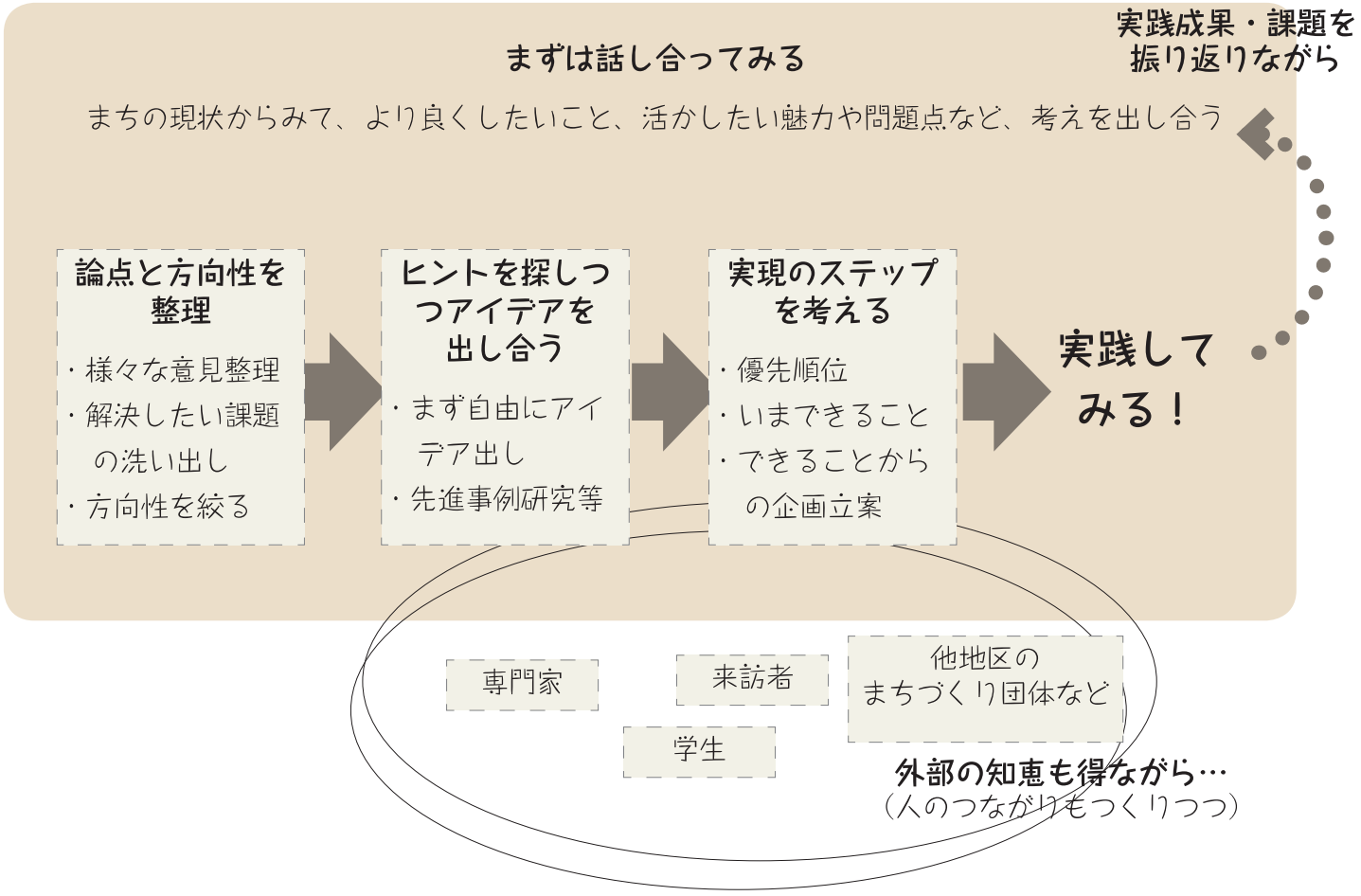
このまちに息づく"手づくりの精神”を活かして、まちをより良くするための実践的なアイデアを出し合い、情報や事例もストックしていく、デザインの道具箱です。

ただし、デザインノートは必要なまちづくりすべての構想を今描ききることが目的ではありません。

ここではまず、ワークショップを通じて、できそうなこととその実現へのステップを考え、少しづつ実践しながらその成果を種とし、地区での共有認識を深めることで、さらにできることを広げていく・・・デザインノートは、"協力し合って実現する成果”が次のまちづくりの道具箱になっていくことを目指しており、実践を経て、まちづくりの道具を増やし、進化していくことが主眼です。

はじめは"道具箱"の中身はそれほど多くはないかもしれませんが、「できることは自分たちで、つくれるものは手づくりで」を基本に少しづつ実践を積み重ね、より実り多きまちづくりを実現していきましょう。

◆デザインノートを活用したまちづくりの展開イメージ



◆デザインノート一覧

これまでのワークショップでの議論等を踏まえ、現時点でのこのまちの道具箱となる、デザインノートを以下に示します。

1） まち歩きを楽しめるように

- 通りを歩きやすく
- 手づくり精神を活かした“まちのメイクアップ”
- 路地空間も楽しむ

2） 門前町のまち並みづくりをもう少し考える

- まち並みを大事にしたい理由
- どうすれば良い？昔ながらの建物が失われていく
- 羽生妻沼線を中心に 「こうありたいまち並み」を考えてみる

3） 継続的なまちづくりのために

- 住民・商業者が協力して進めていくまちづくりのために
- 景観まちづくりの実現に向けて

1） まち歩きを楽しめるように

● 通りを歩きやすく

～羽生妻沼線の歩行者空間を快適にするために～

ワークショップでの意見

「電柱を敷地内に後退させ、歩行者空間を歩きやすく」をテーマに、後退後の歩道空間のデザイン、交通規制、夜間の灯りなどについて話し合いました。

子どもから大人まで安心して歩けるまちにしたい
・交通環境の改善（大型車両の規制・速度制限・駐車場の配置や誘導）
・歩行空間の整備、段差や凸凹の解消など

舗装・仕上げ等
・歩道の色は明るくし、車道と違うものに（車からの視認性）
・いかに門前町らしく整備するか（茶系など）

交通規制
・大型車両が多く、通学路でもあるので規制したい

路上駐車
・店先駐車、ある程度は仕方ないがマナーが必要。

夜間の灯り
・電柱に取り付ける照明もある
・お店に足下を照らすウェルカムライトを。（暖かみのある色）

上記を踏まえ、まず街路空間の仕様などを検討しました。

このような事例も参考に

1　小諸市本町地区　北国街道（w=9m）
■電柱・電線：民地側におさめ、茶系に着色
■舗装：歩道石畳舗装、車道アスファルト
■歩車見切り：白線
■側溝：スリット側溝（車道内）

2　須坂市　銀座通り（w=8m）
■電柱・電線：民地側におさめ、茶系に着色
■舗装：歩車道とも道半たわみ性アスファルト舗装（自然石風）
■歩車見切り：自然石
■側溝：スリット側溝（路肩境界部）


1


2

◆整備計画（案）

○歩行者空間整備

聖天様お膝もとの門前町商店街として、来訪者が快適に歩き、回遊できる歩行者空間を形成するため、現況標準幅員 8.3 mのうち、車道幅を 5.5 m とし、両側各 1.4m を歩行者空間として整備する。

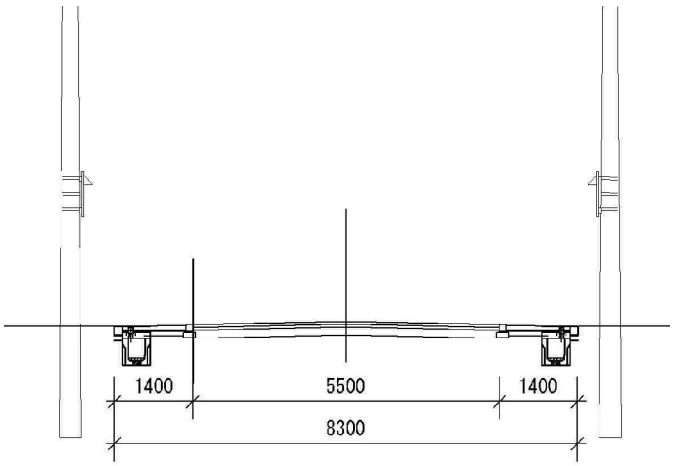
現在路側帯に設置されている電柱を宅地側にセットバックし、街灯（一部民地内）も電柱共架型の照明として再整備することにより、できうるかぎり、歩行者空間のゆとりを確保する。

歩行者空間を歩行者、運転者等が明確に認識できるよう、歩行者空間については舗装の美装化や側溝等の改善、ポール類等の設置をできるだけ最小限とするなどにより、整備効果を最大限に高める。

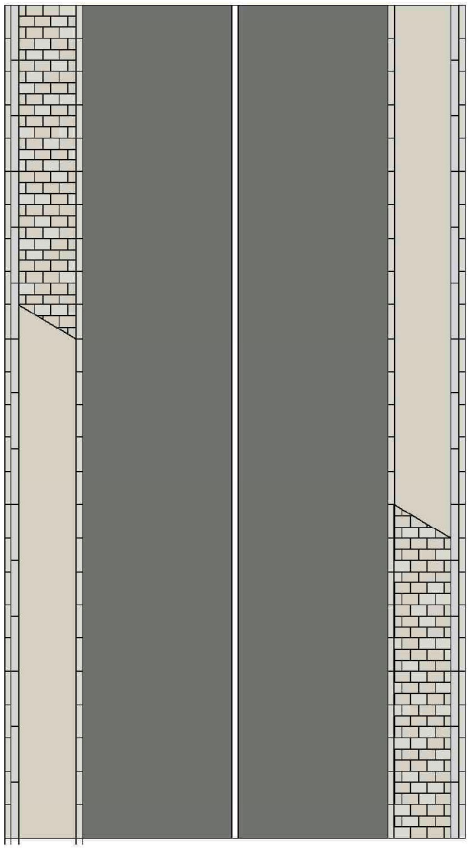




断面構成図



平面パターン図

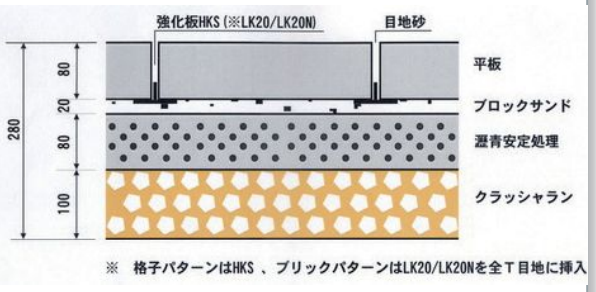


○舗装

路側帯部分を歩行者空間とし、美装化整備する。仕様については市道妻沼 1135 号線との連続性に配慮した色調や素材感とする。

歩道

自然石風非透水性インターロッキングブロック舗装（200×300、自然石洗い出し）とし、車道（アスファルト）との視覚的な差異をつけることに加え、聖域を結ぶ参道である市道妻沼 1135 線との連続性に配慮しつつ、違和感の無い程度に商店街らしく、やや華やぎのある明るめの色調、２色の混ぜ貼りとする。より歩きやすく、また、車両の乗り上げによる破損を防止するため、不陸抑制のための強化板を目地部に挿入する。





強化板



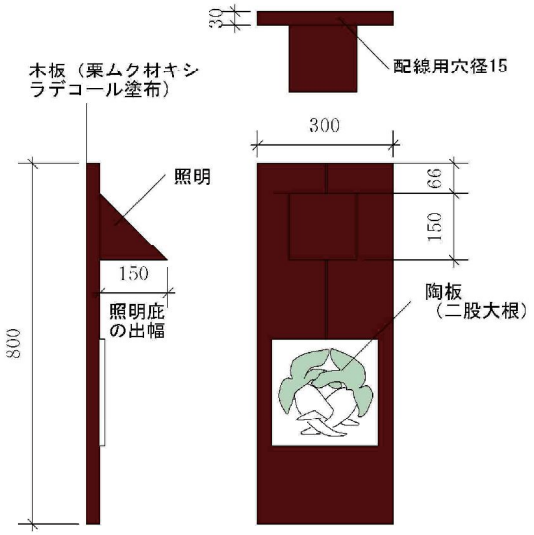
舗装材の色彩イメージ

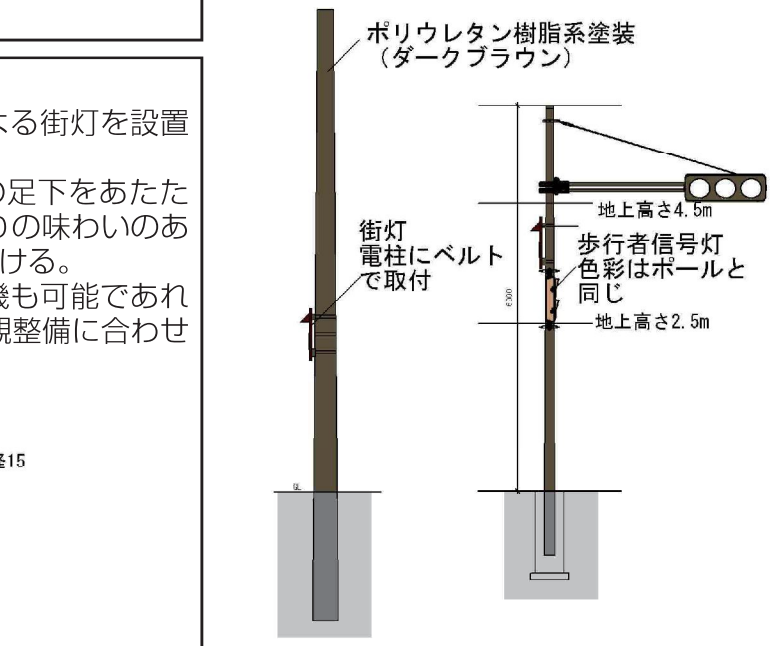
○照明

既存の街灯（ポール）に代え、電柱共架による街灯を設置する。

経済性を考慮した LED 光源とし、通行人の足下をあたたかく照らす照明（2800 ｋ程度）に、手づくりの味わいのある木製板を組み合わせ、バンドによって取り付ける。

信号機設置部では信号共架型とする。信号機も可能であればリニューアルし、LED 化、スリム化し、景観整備に合わせたすっきりとした外観としていきたい。









フラットタイプの車両信号。ひさしが不要であり、陽光の映り込みによる見えにくさもない。

○その他

縁石や側溝についても、できるだけ表面を自然石風な仕上げとし、コンクリートラインを目立たせないものとする。

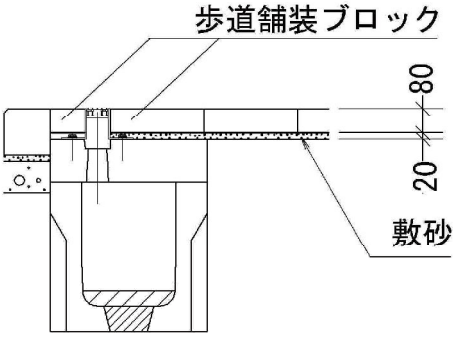
縁石
（地先境界、車道と歩道の見切り）

舗装の色合いに近い擬石縁石とする。

側溝

コンクリートラインの露出を極力小さくするため、スリット側溝（地先境界タイプ・かさ上げタイプ）とする。





～市道妻沼 1135 号線の歩行者空間を快適にするために～

ワークショップでの意見

聖天山と歓喜院本坊を結ぶシンボル的な道づくり
- 聖天山へのアクセスや回遊性の観点から、非常に大切な道である
- 並木道の再整備や道路の拡幅、段差の解消などの検討が必要

並木
- 以前は、桜の並木が続いていた
- 回遊性の向上や「おもてなし」の観点からは、桜を選択することもある

交通環境
- イベント時には大型車両が利用し、自動車のすれ違いが困難
- 地区全体での交通規制との兼ね合いを踏まえる

歩行者空間
- 子どもからお年寄りまでの多くの人が利用する道
- イベント時の歩行者の安全性の確保

＝考察＝

現在、車道と歩道に段差があることから、これらを解消し、羽生妻沼線の街路整備に合わせ、歩道の舗装材などのつながりを持たせることが考えられます。

また、聖天山と歓喜院本坊を結ぶシンボル的な道づくりの観点から、車道の美装化や現在のケヤキ並木の樹種等の検討も必要です。

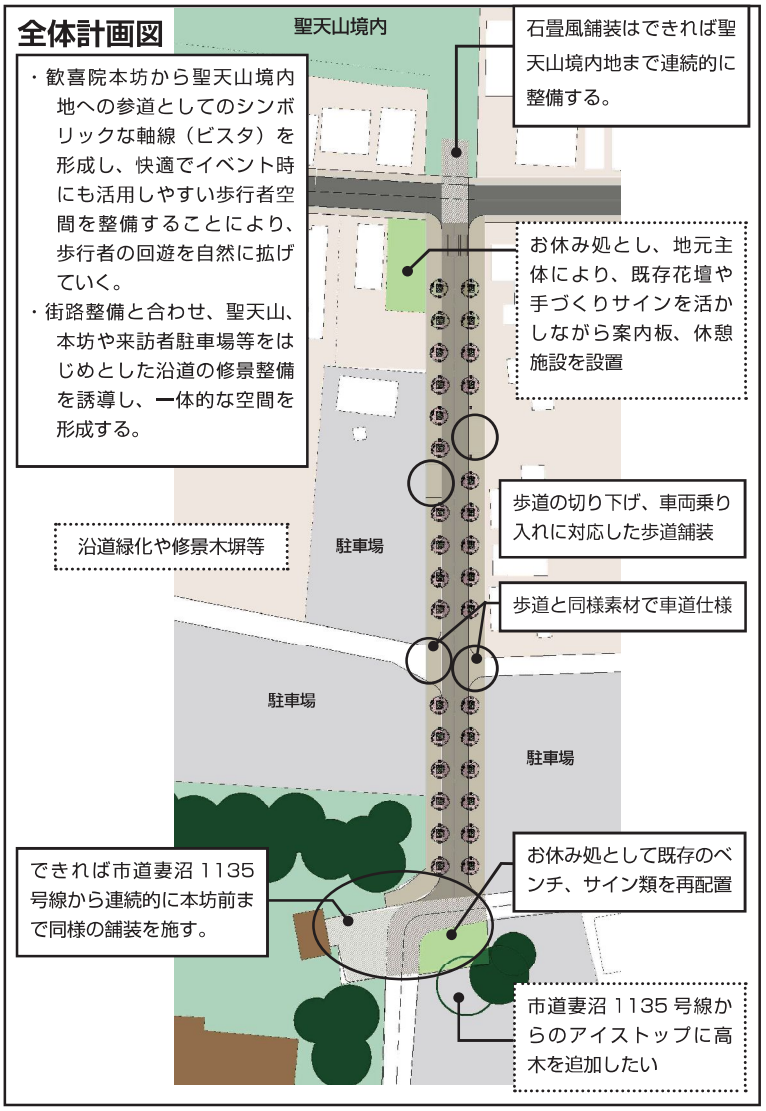
◆整備計画（案）

○断面構成

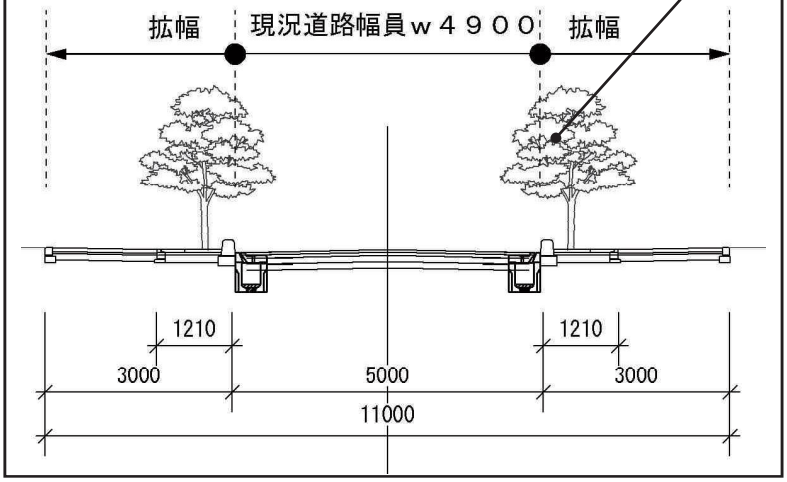
本坊を聖天山と一体的に結ぶ空間として、市道妻沼 1135 号線の景観を強化するため、全体幅員も含めた断面構成を見直し、歴史性を感じさせる空間形成や来訪者の回遊に資する街路空間を形成する。

全体現況幅員 4.9 mに、現在ケヤキや玉石の舗装となっている沿道部分（聖天山地所）を加え、全体幅員 11m とし、歩道の確保された道路として再整備を行う。歩道幅員両側各 3.0 m とし、歩行者空間と植樹空間（但しイベント時等の道路の一体的利用に配慮し、植樹帯とせず、単植の桝を列状配置）を確保する。車道幅員 5.0 mとする。ただし、本坊周辺に大型バスに対応した駐車場があり、これら駐車場機能の代替等、本道を利用する車両の調整が必要となる。

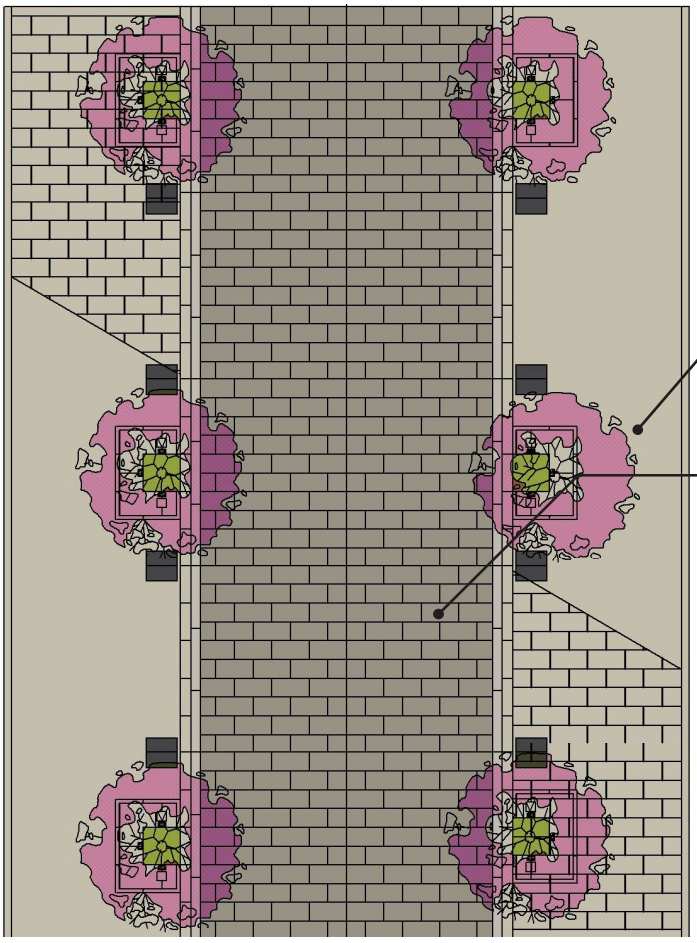
全体計画図



断面構成図



平面パターン図



○植栽

かつて、この通りに桜が植えられていたことや、斉藤別当実盛公を想起させる詞歌に因む樹種として、既存のケヤキに代え、桜並木を形成する。

※世阿弥による謡曲「実盛」のうち、老人に身をやつした実盛公の霊が遊行僧に正体を明かす場面で効果的に用いられる詞歌。老いてなお花を咲かせる桜に自らを喩え、最後の出陣の心情を表現している。

「深山木の、その梢とは見えざりし、
　桜は花にあらはれたる、老木をそれと御覧ぜよ」

植栽桝

植栽桝は歩道舗装とフラットとなるよう蓋かけ（擬石コンクリート）タイプとし、舗装の仕上げや色合いも合わせる。





○舗装

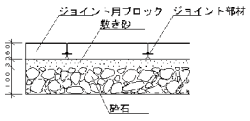
本坊から聖天山への歴史的な参道空間として、全体的に石畳風の舗装を施し、色調も聖天山、本坊の緑や桜並木等の彩りが映えるよう明度や彩度を抑えたものとする。

歩道

県道羽生妻沼線との連続性を考慮し、同一規格の自然石風透水性インターロッキングブロック舗装（300×600、不陸抑制のためのジョイント部材使用、ショットブラスト）とし、ウォームグレー系の２色混ぜ貼りとする。

車道

経済性を考慮し、アスファルト舗装とするが、石畳の参道空間をイメージした表層、仕上げ（半たわみ性・保水性、ショットブラスト＋デザインカッター目地 300×600。またより自然な風合いとするため骨材採石に石灰岩を加える）









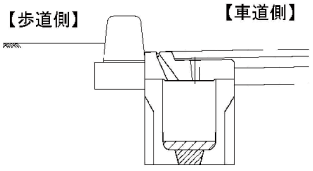
舗装材の
色彩イメージ

藍白(あいじろ)
(SULG)

灰青(はいあお)
(SUGL)

○その他

歴史を感じさせる参道空間とするため、縁石や側溝についてもできるだけ表面を自然石風な仕上げとし、コンクリートラインを目立たせないものとする。



縁石

舗装の色合いに近い擬石縁石とする。

側溝

コンクリートラインの露出を極力小さくするため、スリット付Ｕ型側溝（かさ上げタイプ・自由勾配）とする。



○照明

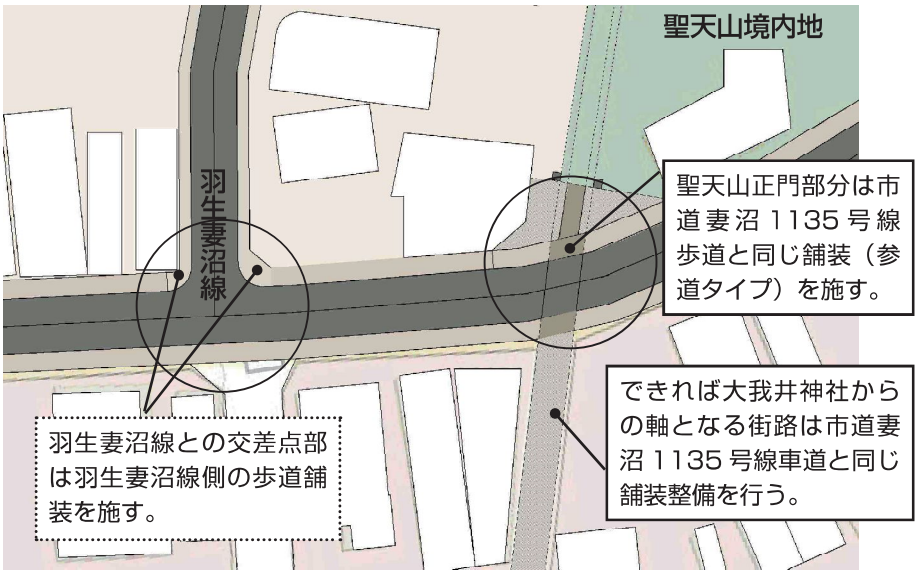
既存の赤灯籠を活用し、植樹に合わせて再配置する。（約３m間隔）



～要所での一体的な整備で、より快適に！～

聖天山正門・県道太田熊谷線交差点

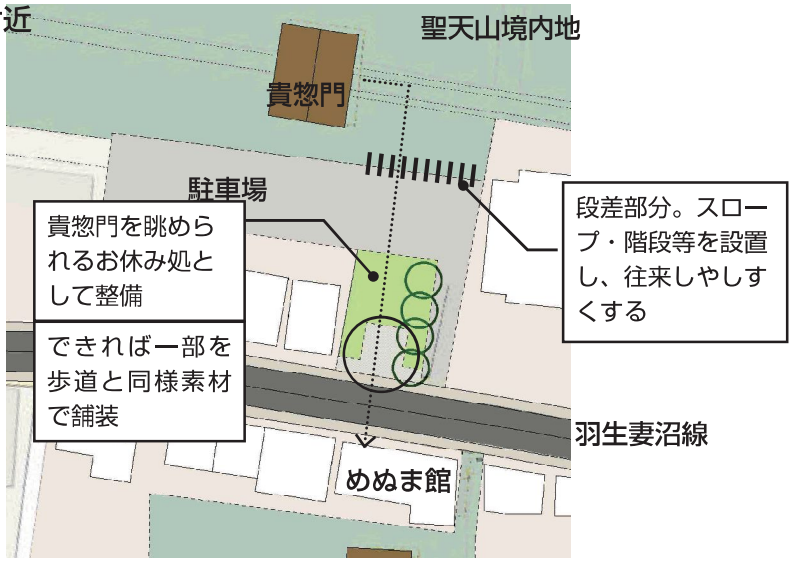
・聖天山正門、県道太田熊谷線交差点部の存在を強調するため、交差部の歩道舗装を工夫する。



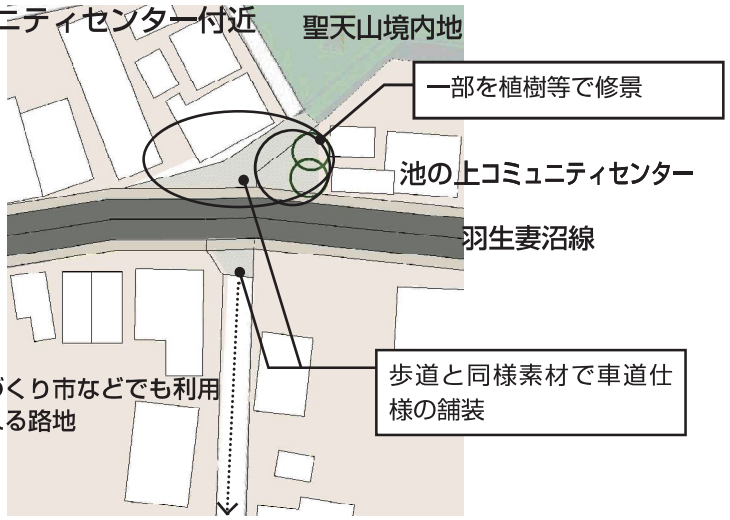
貴惣門付近・池ノ上コミュニティセンター付近

・羽生妻沼線は、十分な歩行者空間確保が難しい幅員ではあるものの、沿道の低層のまち並みとバランスのとれたスケール感があり、聖天山境内地と地区をつなぐ道として、要所で沿道との一体感を感じさせる整備を行うことが効果的である。
・そのため、聖天山境内地からの出入り口部分や、魅力的な路地への入口などのスペースなどの一部に同じ歩道舗装を施し、空間の視覚的なにじみ出しを図りたい。

貴惣門付近



池ノ上コミュニティセンター付近



～県道太田熊谷線の歩行者空間を快適にするために～

ワークショップでの意見

安全で快適に歩ける通りへ
・めぬま観光駐車場から聖天様へのアクセス性の向上
・歩行空間の整備、段差や凸凹の解消など

核づくりとおもてなし空間によるにぎわいの再生へ
・空き店舗が増え、防災・防犯上も危険
・まちなかギャラリーが見えにくい

舗装・仕上げ等
・歩道の切り下げが多く、歩きにくく危険
・歩きやすい舗装材の活用や段差の解消

交通規制
・観光客のアクセスを阻害しない交通規制の検討

店先の演出
・心地よい店先の演出、景観づくり

空き地・空き店舗の活用
・朝市等のイベントはよい
・お休み処（ベンチ）がほしい

＝考察＝

既に歩道を整備した路線ではありますが、（車出入りのための）歩道の切り下げによる道の傾斜などが歩きづらいとの指摘が多くありました。今後、坂田医院旧診療所と井田記念館を核とした観光交流拠点づくりを進めつつ、聖天山への主要なアクセス道路として、これらの改善を図っていく必要があります。

◆整備計画（案）

○断面構成

観光駐車場から聖天山への主要アクセス路、羽生妻沼線に連なる門前町として、より快適で魅力的な空間としていくため、歩道リニューアルを主とした街路整備を検討する。

幅員構成は変更しないが、歩道部の凹凸、勾配による歩きにくさを解消するため、現況の歩道（マウンドアップ式）からセミフラット式へと変更する。

現況宅盤が現況歩道に摺りつけられていることから、車道の嵩上げ、取り付き道路とのレベル調整等も含めた検討が必要となる。

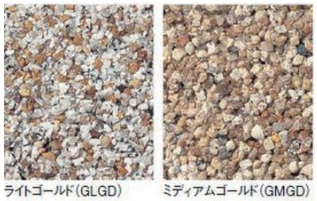
○舗装

老朽化した現況歩道舗装から、県道羽生妻沼線との連続性を考慮した舗装に変更する。

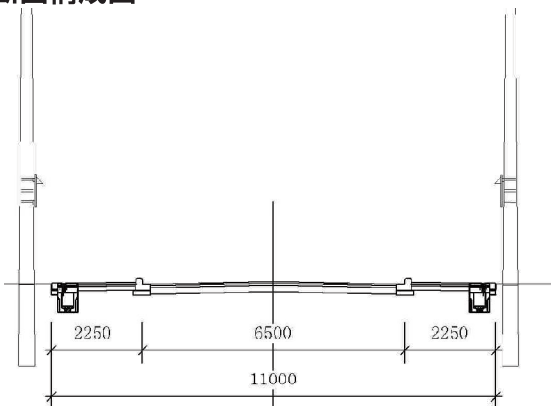
歩道

県道羽生妻沼線との連続性を考慮し、自然石風透水性インターロッキングブロック（300×300、不陸抑制のためのジョイント部材使用、自然石洗い出し）とする。ただし徐々に聖域へと向かう道として、聖域のお膝元である県道羽生妻沼線よりもややカジュアルなイメージを意識した仕様とする。（やや色味のある２色の組み合わせ、芋貼り）

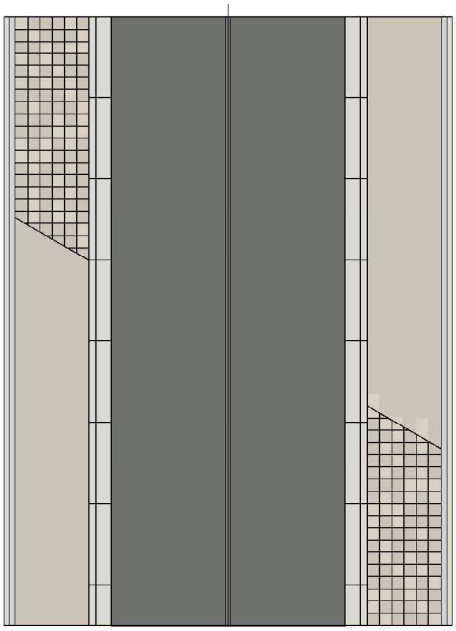
舗装材の色彩イメージ



断面構成図



平面パターン図



○照明
県道羽生妻沼線と同様に、既存の街灯（ポール）に代え、電柱共架による街灯設置、信号機のリニューアルを検討する。
（詳細は県道羽生妻沼線の項）

○その他
縁石や側溝についてもできるだけ表面を自然石風な仕上げとし、コンクリートラインを目立たせないものとする。

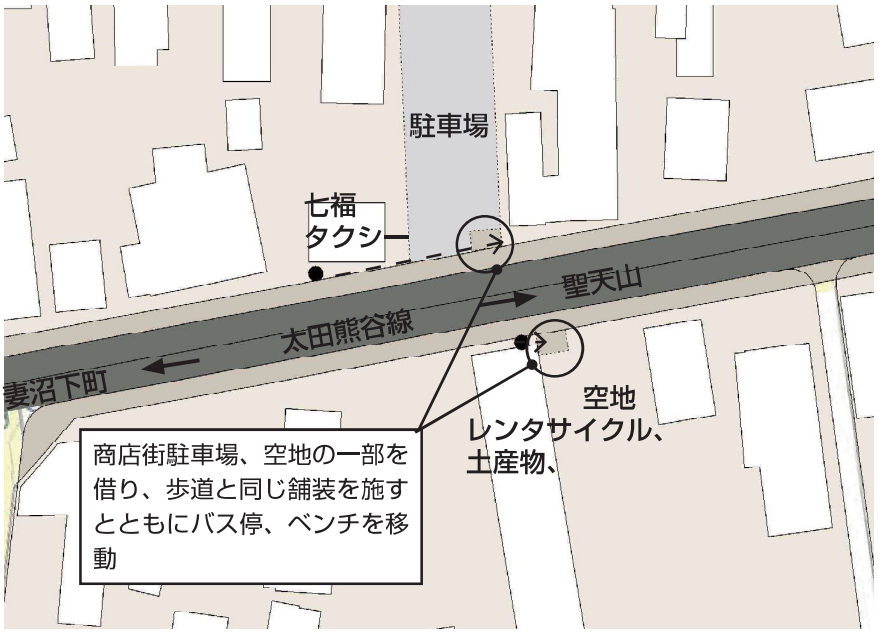
縁石（歩車道、地先境界）
舗装の色合いに近い縁石とする。

側溝（地先境界部）
県道羽生妻沼線と同じタイプとする。

～要所での一体的な整備で、より快適に！～

妻沼仲町バス停付近

・観光駐車場と聖天山との中間地点にあり、レンタサイクルやタクシー、商店街駐車場もある妻沼仲町バス停付近をより快適に利用しやすくするため、配置、舗装を改善する。



その他

・観光駐車場、井田記念館、旧坂田医院敷地を車利用者の観光起点として強化していくことが望まれる。
・できれば現況の外構整備の見直しを図りながら、太田熊谷線との一体性についても強化を図っていきたい。

